

事業名：火災予防推進事業

予防課 予防係

政策	04 安全・安心	戦略	
取組の基本方針	03 消防・救急の充実	具体的施策	
開始年度	—	終了年度	—
		区分1	継続
		区分2	単独
			補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

- ・市民
- ・事業所（消防法の規制対象となる建物）

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 市民	人	118,979	118,971	119,510	119,510
対象指標 2 事業所	件	3,657	3,698	3,805	3,829

手段（事務事業の内容、手法）

- ・市民～火災予防運動等のイベント実施、民間防火組織（少年女性防火委員会）の育成、出前講座、防火研修会の実施、防火・防災訓練における指導等。
- ・事業所～立入検査時及び消防訓練における指導の徹底並びに防火管理者連絡協議会、危険物安全協会と連携した研修会等の開催等。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 火災予防啓発イベント実施件数	件	34	35	34	34
活動指標 2 消防訓練等参加人数	人	46,627	46,579	42,966	46,603

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

- ・市民～防火意識の高揚により火災件数が減少するとともに、住宅用火災警報器、住宅用消火器といった住宅用防災機器の設置促進により、火災被害の軽減が図られる。
- ・事業所～法令順守による防火管理体制、保安管理体制の推進により、事業所における防火・安全意識が高まり、火災や事故の軽減が図られる。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 建物火災の発生件数	件	12	26	15	20
成果指標 2 建物火災における死傷者数（放火自殺者等を除く）	人	5	5	5	5

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	1,446	1,537	1,422	1,315
正職員人件費 (B)	千円	68,562	68,643	63,418	61,928
総事業費 (A+B)	千円	70,008	70,180	64,840	63,243

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）	
元年度	火災予防啓発（火災予防運動、防火研修会の開催、電気火災デモ装置等作成） 事業所に対する防火管理・保安管理体制の推進 住宅用火災警報器更新促進強化（住警器パネル、住宅防火アドバイザー養成研修会） 火災原因調査（資器材の充実による調査体制の整備） 民間防火組織育成	火災予防啓発事業（広報物等） 事業所に対する防火管理・保安管理体制の推進 住宅用火災警報器更新促進強化事業 火災原因調査（資器材整備） 民間防火組織育成事業	459千円 138千円 214千円 158千円 196千円

事業開始背景

消防組織法及び消防法において「国民の生命、身体及び財産を火災から保護すること」が消防の任務、目的と定められており、火災予防の推進は、自治体消防設立時から重要な事業として取り組んでいる。

事業を取り巻く環境変化

市の財政が厳しくなっており、少ない経費で今以上により効果的な事業内容とする必要がある。法改正に伴い、立入検査に係る業務の割合が増加している。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？						
成果動向及び原因分析	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> 建物火災の発生件数は、短期的に見ると年によって増減がみられるものの、長期的には減少傾向にあり、成果は上がっているといえる。 </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td>上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	建物火災の発生件数は、短期的に見ると年によって増減がみられるものの、長期的には減少傾向にあり、成果は上がっているといえる。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	建物火災の発生件数は、短期的に見ると年によって増減がみられるものの、長期的には減少傾向にあり、成果は上がっているといえる。				
どちらかといえば上がっている						
上がっていない						
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？						
成果向上余地	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> 住宅用防災機器の設置促進により、建物火災における逃げ遅れ等による死傷者数を減少させる余地はある。 </td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	住宅用防災機器の設置促進により、建物火災における逃げ遅れ等による死傷者数を減少させる余地はある。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	住宅用防災機器の設置促進により、建物火災における逃げ遅れ等による死傷者数を減少させる余地はある。				
成果向上余地 中						
成果向上余地 小						
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？						
コスト	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; background-color: #cccccc;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;"> 市内の事業者や民間防火組織と火災予防啓発に関し連携強化を図ることで、コストを削減できる可能性はある。 </td> </tr> <tr> <td>なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	市内の事業者や民間防火組織と火災予防啓発に関し連携強化を図ることで、コストを削減できる可能性はある。	なし	
ある	理由 根拠	市内の事業者や民間防火組織と火災予防啓発に関し連携強化を図ることで、コストを削減できる可能性はある。				
なし						

事業名：救急業務高度化推進事業

警防課 主査(救急高度化)

政策	04 安全・安心	戦略	
取組の基本方針	03 消防・救急の充実	具体的施策	
開始年度	平成16年度	終了年度	—
	区分1	継続	区分2
	単独	補助金	

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

救急隊員

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標1 救急救命士の数	人	31	32	32	33
対象指標2 一般救急隊員の数	人	59	60	61	62

手段(事務事業の内容、手法)

- ・医療機関等における救急救命士を含む救急隊員の再教育研修(救急救命士：年間64時間、その他の救急隊員：年間80時間)
- ・救急救命処置拡大に伴う研修(講習及び病院実習)
- ・医師による救急活動の事後検証

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標1 事後検証の件数(医師による指示・助言等)	件	217	203	194	220
活動指標2 認定講習及び病院実習派遣人員(延べ人員)	人	28	26	25	31

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

医療機関等において、救急救命士を含む救急隊員の再教育研修を行うことにより、救急活動の質が担保され、市民に対する救命効果の向上を目的とした、より高度な知識と技術の習得が図られる。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標1 救急救命士を含む救急隊員の再教育日数(延べ日数)	日	660	882	688	990
成果指標2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)	千円	4,822	4,221	4,517	5,285
正職員人件費(B)	千円	15,236	15,254	15,374	11,612
総事業費(A+B)	千円	20,058	19,475	19,891	16,897

事業内容(主なもの)	費用内訳(主なもの)
元年度 ・救急救命士を含む救急隊員の再教育研修(医療機関等への研修派遣) ・救急需要対策(救急車適正利用の適正化に向けた広報活動、応急手当講習会の開催に係る物品の購入、修繕ほか) ・救急救命活動に必要な資機材等の整備(救急資機材保守点検ほか)	救急救命士研修経費 (2,028千円) 救急需要対策経費 (861千円) 救急救命活動関係経費 (1,610千円)

事業開始背景

救急救命士法施行規則の一部改正（平成15年4月1日施行）により、除細動について医師の具体的な指示を受けなければ行えない行為の対象から除外され、その条件としてプロトコルに沿った実施等についての事後検証体制の整備など、救急活動の事前・事後のメディカルコントロール体制の構築が必要となった。

事業を取り巻く環境変化

救急救命処置の拡大により、講習及び病院実習が追加された。また、救急救命士のみならず一般救急隊員の再教育が義務化された。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	▶	気管挿管の病院実習は、受入れ先医療機関の都合によって実習が実施できなかった。また、新型コロナウイルス感染症流行によって、派遣を伴う研修や病院実習が中止となり、一部計画に基づいた派遣ができなかった。
	どちらかといえば上がっている			
	上がっていない			

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	救急研修に関する要綱に基づく教育研修の方法や回数を見直すことで成果向上の余地がある。
	成果向上余地 中			
	成果向上余地 小			

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	▶	実習派遣方法の見直しを行い、再教育に最低限必要な予算計上を行っているため、コスト削減は困難である。
	なし			

事業名：救急救命活動事業

消防1・2課 救急1・2係

政策	04 安全・安心			戦略				
取組の基本方針	03 消防・救急の充実			具体的施策				
開始年度	平成 9年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市民

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	人口	人	118,979	118,971	119,510	119,510
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

救急現場及び医療機関へ収容するまでの間に救急救命士や救急隊員が適切な応急処置を実施する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	年間救急出場件数	件	4,532	4,898	5,032	5,050
活動指標 2	年間搬送人員	人	4,262	4,570	4,709	4,750

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

医療機関収容までの間、市民（傷病者）に対して
 ・苦痛が軽減され安心感を与える
 ・速やかに適切な応急処置を行うことにより救命効果の向上を図る

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	平均医療機関収容時間	分・秒	36.06	37.42	39.46	39.46
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	7,381	6,944	7,351	6,769
正職員人件費 (B)		千円	60,944	61,016	92,244	92,892
総事業費 (A+B)		千円	68,325	67,960	99,595	99,661

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	・救急活動に必要な医薬材料及び資器材修繕等	・医薬材料費、修繕費等	7,351千円

事業開始背景

消防法第1条に基づき昭和43年7月より救急業務を開始した。平成3年施行の救急救命士法に基づき平成6年から救急救命士の養成を開始した。
平成9年の救急救命士運用開始に伴い高規格救急車を導入し、より高度な救急救命処置を開始した。

事業を取り巻く環境変化

全国的にも救急需要増加の一因と考えられる高齢者人口の増加は当市でも同様であり、今後も救急需要の増大が予想される。
平成26年には救急救命士法施行規則の一部改正によって救急救命士の処置範囲が拡大され、心肺機能停止前の重度傷病者に対する処置が可能となった。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？						
成果動向及び原因分析	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;">市外医療機関への搬送が増加していることで医療機関収容までの時間が延びている。</td> </tr> <tr> <td>どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="background-color: black; color: white;">上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	市外医療機関への搬送が増加していることで医療機関収容までの時間が延びている。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	市外医療機関への搬送が増加していることで医療機関収容までの時間が延びている。				
どちらかといえば上がっている						
上がっていない						
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？						
成果向上余地	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;">市内医療機関と連携し受入体制の充実を図る。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: black; color: white;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	市内医療機関と連携し受入体制の充実を図る。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	市内医療機関と連携し受入体制の充実を図る。				
成果向上余地 中						
成果向上余地 小						
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？						
コスト	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;">継続的に経費削減の工夫をしているが、高齢化社会の進展に伴い救急出動件数が増加しており削減は困難である。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: black; color: white;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	継続的に経費削減の工夫をしているが、高齢化社会の進展に伴い救急出動件数が増加しており削減は困難である。	なし	
ある	理由 根拠	継続的に経費削減の工夫をしているが、高齢化社会の進展に伴い救急出動件数が増加しており削減は困難である。				
なし						

事業名：常備消防用備品等整備事業

警防課 主査(装備)

政策	04 安全・安心	戦略						
取組の基本方針	03 消防・救急の充実	具体的施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

- ・消防吏員
- ・消防機械器具

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	消防用機械器具の整備計画数	個	129	71	122	119
対象指標 2						

手段(事務事業の内容、手法)

「消防機械器具整備計画」に基づき、既存の消防用機械器具の更新整備を進めるとともに、災害活動に応じた必要な当該機械器具の整備を行う。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	整備費	千円	4,819	2,559	2,759	10,615
活動指標 2						

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

更新整備により災害現場活動における職員の安全と効率的活動を確保する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	整備個数	個	129	53	68	119
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)		千円	4,918	2,694	3,044	6,320
正職員人件費(B)		千円	7,618	7,627	7,687	7,741
総事業費(A+B)		千円	12,536	10,321	10,731	14,061

事業内容(主なもの)		費用内訳(主なもの)	
元年度	消防用ホース など	消防用ホース	1,865千円

事業開始背景
<ul style="list-style-type: none"> ・ 消防組織法（昭和22年法律226号） ・ 消防力の整備指針（平成12年総務省消防庁）
事業を取り巻く環境変化
<ul style="list-style-type: none"> ・ 消防力の整備指針の改正（平成17年総務省消防庁）

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）	
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
成果動向及び原因分析	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>上がっている</p> <hr/> <p>どちらかといえば上がっている</p> <hr/> <p>上がっていない</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px; text-align: center;">理由 根拠</div> <div style="flex-grow: 1; padding: 5px;"> <p>整備計画に基づき更新を進めている。</p> </div> </div>
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	
成果向上余地	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>成果向上余地 大</p> <hr/> <p>成果向上余地 中</p> <hr/> <p>成果向上余地 小</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px; text-align: center;">理由 根拠</div> <div style="flex-grow: 1; padding: 5px;"> <p>整備計画に基づき効率的に更新整備を行っているものであり、成果が向上する余地は小と考える。</p> </div> </div>
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？	
コスト	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>ある</p> <hr/> <p>なし</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px; text-align: center;">理由 根拠</div> <div style="flex-grow: 1; padding: 5px;"> <p>耐用年数を基に予算の平準化を図り整備計画を策定している。整備する個数や仕様など可能な限り効率的に更新整備を図っており、これ以上のコスト削減は成果の低下につながる。</p> </div> </div>

事業名：消防団運営費

総務課 消防団係

政策	04 安全・安心	戦略						
取組の基本方針	03 消防・救急の充実	具体的施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

消防団員

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 消防団員	人	194	194	196	196
対象指標 2					

手段（事務事業の内容、手法）

消防団は、日常各自の職業に従事しながら必要の都度参集し、消火活動のみならず、地震や風水害等の多数の動員を必要とする大規模災害への対応に従事する。また、平常時においては、実践的な消防防災訓練を実施し、さらに、防火啓発活動や応急手当の普及指導などの地域住民等に対して活動を行う。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 災害活動件数	件	16	12	10	16
活動指標 2 消防防災等の訓練及び地域住民に対する活動	回	182	201	217	199

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

火災による消火活動のみならず、自然災害時の救助救出、避難誘導や災害防御活動等に的確に対応できる。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 災害活動に従事した消防団員（延べ人員）	人	159	201	136	244
成果指標 2 訓練に参加した消防団員（延べ人員）	人	1,409	1,630	1,560	1,818

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	29,651	29,870	29,579	29,874
正職員人件費 (B)	千円	15,236	15,254	15,374	15,482
総事業費 (A+B)	千円	44,887	45,124	44,953	45,356

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度 消防団の災害活動及び訓練等にかかる経費	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団員年報酬 6,231千円 ・消防団員費用弁償 12,009千円 ・一部事務組合負担金 5,397千円

事業開始背景

消防団は、地域防災体制の中核的存在として、古くから地域の安心・安全のため、大きな役割をはたしてきている。地域の実情に精通した消防団は、地域密着性、要員動員力及び即時対応力の面でも優れており、阪神・淡路大震災以降、消防団の持つ組織力が再認識され、大規模災害時の対応や身近な災害への取組等地域の安心・安全の確保のうえで不可欠な組織である。

事業を取り巻く環境変化

近年の災害の大規模化や広域化に伴って、地域の総合的な防災力を向上させる必要性が増してきていることから、消防団は救助対応力の向上を図るほか、自主防災組織などの地域住民に防災の知識を教えるなどの新たな役割や、地域の実態にあった組織、団員数を確保し、地域に必要な体制を整えることが期待されている。今後とも地域住民との連携を図り、消防団の効率的な活動が必要となる。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？			
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	地域と連携した予防啓発活動により、災害活動件数は減少傾向にある。また、訓練の充実により災害対応力の強化が図られた。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？			
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	災害件数減少に向けて積極的な予防啓発活動を行うと共に、効率的な災害対応を実現するため、訓練を充実強化することで成果指標の向上を図る。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？			
コスト	ある	理由 根拠	消防団員の年報酬や出動手当支給のための地方交付税単価が増額している中、平成12年度以降本市消防団員の費用弁償は増額しておらず、実質的なコスト削減となっている。また、活動の縮小は成果指標の低下を招くため、これ以上のコスト削減は困難である。
	なし		

事業名：消防車両整備事業

警防課 主査(装備)

政策	04 安全・安心			戦略				
取組の基本方針	03 消防・救急の充実			具体的施策				
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

- ・消防車及び救急車

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	消防車及び救急車の整備計画台数	台	3	2	2	2
対象指標 2		件				

手段(事務事業の内容、手法)

- ・「消防機械器具整備計画」に基づき車両の整備などを行う。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	整備費	千円	70,221	252,990	70,263	85,747
活動指標 2		千円				

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

計画的な更新整備などにより、各車両の性能維持と安定稼働を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	整備台数	台	3	2	2	2
成果指標 2		件				

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)		千円	70,220	253,186	70,336	85,700
正職員人件費(B)		千円	7,618	7,627	7,687	11,612
総事業費(A+B)		千円	77,838	260,813	78,023	97,312

事業内容(主なもの)		費用内訳(主なもの)	
元年度	水槽付消防ポンプ自動車 小型動力ポンプ付積載車	水槽付消防ポンプ自動車	61,614千円 8,650千円

事業開始背景

- ・ 消防組織法（昭和22年法律226号）
- ・ 消防力の整備指針（平成12年総務省消防庁）

事業を取り巻く環境変化

- ・ 消防力の整備指針の改正（平成17年総務省消防庁）
- ・ 消防用車両の安全基準（平成19年日本消防検定協会）

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？							
成果動向及び原因分析	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;"> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td style="background-color: black; color: white;">上がっている</td></tr> <tr><td>どちらかといえば上がっている</td></tr> <tr><td>上がっていない</td></tr> </table> </td> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td style="width: 60%; padding: 5px;"> 整備計画に基づき更新を進めている。 </td> </tr> </table>	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td style="background-color: black; color: white;">上がっている</td></tr> <tr><td>どちらかといえば上がっている</td></tr> <tr><td>上がっていない</td></tr> </table>	上がっている	どちらかといえば上がっている	上がっていない	理由 根拠	整備計画に基づき更新を進めている。
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td style="background-color: black; color: white;">上がっている</td></tr> <tr><td>どちらかといえば上がっている</td></tr> <tr><td>上がっていない</td></tr> </table>	上がっている	どちらかといえば上がっている	上がっていない	理由 根拠	整備計画に基づき更新を進めている。		
上がっている							
どちらかといえば上がっている							
上がっていない							
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？							
成果向上余地	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;"> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td>成果向上余地 大</td></tr> <tr><td>成果向上余地 中</td></tr> <tr><td style="background-color: black; color: white;">成果向上余地 小</td></tr> </table> </td> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td style="width: 60%; padding: 5px;"> 整備計画に基づき効率的に更新整備を行っているものであり、成果が向上する余地は小と考える。 </td> </tr> </table>	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td>成果向上余地 大</td></tr> <tr><td>成果向上余地 中</td></tr> <tr><td style="background-color: black; color: white;">成果向上余地 小</td></tr> </table>	成果向上余地 大	成果向上余地 中	成果向上余地 小	理由 根拠	整備計画に基づき効率的に更新整備を行っているものであり、成果が向上する余地は小と考える。
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td>成果向上余地 大</td></tr> <tr><td>成果向上余地 中</td></tr> <tr><td style="background-color: black; color: white;">成果向上余地 小</td></tr> </table>	成果向上余地 大	成果向上余地 中	成果向上余地 小	理由 根拠	整備計画に基づき効率的に更新整備を行っているものであり、成果が向上する余地は小と考える。		
成果向上余地 大							
成果向上余地 中							
成果向上余地 小							
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？							
コスト	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;"> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td>ある</td></tr> <tr><td style="background-color: black; color: white;">なし</td></tr> </table> </td> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td style="width: 60%; padding: 5px;"> 耐用年数を基に予算の平準化を図り整備計画を策定している。整備する個数や仕様など可能な限り効率的に更新整備を図っており、これ以上のコスト削減は成果の低下につながる。 </td> </tr> </table>	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td>ある</td></tr> <tr><td style="background-color: black; color: white;">なし</td></tr> </table>	ある	なし	理由 根拠	耐用年数を基に予算の平準化を図り整備計画を策定している。整備する個数や仕様など可能な限り効率的に更新整備を図っており、これ以上のコスト削減は成果の低下につながる。	
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td>ある</td></tr> <tr><td style="background-color: black; color: white;">なし</td></tr> </table>	ある	なし	理由 根拠	耐用年数を基に予算の平準化を図り整備計画を策定している。整備する個数や仕様など可能な限り効率的に更新整備を図っており、これ以上のコスト削減は成果の低下につながる。			
ある							
なし							

事業名：消防庁舎・出張所改修事業

総務課 総務係

政策	04 安全・安心			戦略				
取組の基本方針	03 消防・救急の充実			具体的施策				
開始年度	平成24年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

消防本部庁舎・出張所・消防団分団庁舎

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	庁舎件数	件	8	8	8	8
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

不具合若しくは老朽化等により施設が機能しなくなることを防止するために改修工事を実施する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	改修費用	千円	13,651	1,759	0	2,700
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

消防業務が円滑に行えるように安全で適正な施設及び執務環境を確保する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	改修工事を行った箇所数	箇所	4	2	0	2
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	13,651	1,759	0	2,700
正職員人件費 (B)		千円	5,333	5,339	0	3,871
総事業費 (A+B)		千円	18,984	7,098	0	6,571

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	平成31年度は改修工事なし。		

事業開始背景

市民の生命・財産を守り、災害時に迅速かつ的確な消防活動を行うには、消防、災害活動の拠点である消防庁舎を適正に維持管理するとともに、計画的な改修を行う必要がある。

事業を取り巻く環境変化

消防の各庁舎は、建設から年数が経過していることから使用形態の変更や老朽化が進んでおり、小規模修繕のほか、改修工事の施工による施設維持が必要となっている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	▶	おおむね計画通りに庁舎改修が進んでいるため、庁舎、設備の機能が適正に維持されている。
	どちらかといえば上がっている			
	上がっていない			

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	計画に沿った庁舎改修の実施により、庁舎機能が適正に維持され、消防活動の効率化が図られる。
	成果向上余地 中			
	成果向上余地 小			

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	▶	庁舎機能の適正管理には計画的な改修工事が必要であるが、改修の規模や程度によってはコスト増が見込まれる。
	なし			